横浜「カジノ推進」の茨道

写真は『週刊東洋経済』9 月 7 日号。冒頭部分から。

「林（文子横浜市長）さんは私の顔に泥を塗った」

8 月 23 日の記者会見でそうぶちまけたのは、〝横浜の首領〟と称される横浜港運協会会長の藤木幸夫氏(89)。横浜で港湾荷役事業を営む藤木企業の会長だ。同氏は前日に林市長が IR(カジノを含む統合型リゾート施設)を横浜・山下埠頭に誘致すると発表したことに猛反発してみせた。

林市長は、生産年齢人口が大きく減少する中で老年人口が増加するという「横浜の将来への強い危機感」を背景に、「成長、発展を続けていくためには、IR を実現していく必要があるという結論に達した」と説明した。IR を誘致できれば、建設時に 7500 億円、運営時には年間 6300 億円を超える経済波及効果を見込めるというのだ。そして、年間 1200 億円の税収増が期待でき、財政の改善にも寄与するとしている。

カジノ抜きでの観光施設整備を訴えてきた藤木会長は 6 月下旬、山下埠頭のあり方について要望文書を出していた。ところが返事が来ないまま IR 誘致が発表されたため、「俺は命を張ってでも反対する」と憤懣やる方ない。

朝日新聞 8 日の「天声人語」は、横浜カジノ推進に「舵を切った」ことを取りあげるが、大阪にも参考になるので紹介したい。

横浜市の林文子市長が突然、カジノ誘致に名乗りを上げた。先週の市議会で質問攻めにあったのだが、その答弁がなかなか味わい深い。例えば「すべてのばくちが悪というのは違う」と話し、こう続けた▼「競馬をご覧になったらわかると思うが、ものすごい数の人が、馬に対する思いとか感謝を持っている」。ルーレットへの思いや感謝もあってしかるべき、ということだろうか▼ギャンブル依存症の人が増えるのでは、との質問も相次いだ。市長は、医学部のある横浜市立大学に「医療面を中心に大きな役割を果たしてもらう」と述べた。依存症になっても大学病院が治してくれますよ、ということだろうか▼誘致するのはカジノだけでなく、それを含んだ統合型リゾート(IR)である。市の資料であるイメージ図には劇場や美術館、水族館まで並ぶ。だから IR イコールカジノではない、一流の娯楽施設ができるのだと市長は言う▼ならばカジノ抜きのリゾートをつくればいい。そんな質問も出たが、運営が成り立たないそうだ。カジノに依存した IR。その IR により、市は年間最大 1200 億円の増収効果を見込む。現在の市の税収の 15%に相当する額だ。これでは横浜の財政が「カジノ依存症」なってしまう▼林市長は、子育てや医療など「安心安全な生活」を守るため決断したと言う。カジノあっての豊かな暮らし。あなたのまちがもしそうなったら、どうだろう。IR 誘致には大阪、長崎、和歌山も手をあげている。

（2019 年 9 月 13 日）